

## G7外相会合で発表された「広島宣言」について

～核兵器廃絶を永遠の彼方に追いやるべきではない～

本日発表された「広島宣言」は冒頭で広島・長崎の原爆による被害について、「極めて甚大な壊滅と非人間的な苦難という結末を経験し」とあまりにも簡潔に述べるにとどまり、原爆被害の深刻さ・非人道性について真摯に世界に発信しようとする姿勢が見られない。これまで「人道性に関する共同声明」に賛同してきた日本政府の立場からも疑問を感じざるをえない。

また、「長年をかけて核兵器国の核戦力は大幅に削減された」と自賛し、「核兵器のない世界」は「現実的な、漸進的なアプローチをとることのみにより達成できる」として、いわゆる「ステップバイステップ」の立場から少しも変わっていない。

これでは、「核保有国と非核保有国のかけはし」ではなく、核保有国とNATO諸国などその同盟国の立場と同じである。

昨年の国連総会では、「核兵器禁止条約」など期限を切った法的枠組みを求める多くの決議が加盟国の7割から8割の賛成で決議されている。核兵器のない世界を求める声は今やゆるぎないものであり、「核保有国と非核保有国の対立が深まっている」のではなく「核保有国の孤立が深まっている」のである。

「宣言」は最後で「核兵器は二度と使われてはならないという広島及び長崎の人々の心からの強い願いをともにしている」と述べているが、そうであるならば、核兵器のない世界を実現するために、いま直ちに行動を起こすべきであり、いつまでも「ステップバイステップ」などと核兵器廃絶を永遠の彼方に追いやるようなことはやめるべきである。

2016年4月11日

原水爆禁止広島県協議会

筆頭代表理事 大森 正信

内閣総理大臣 安倍晋三 殿  
外務大臣 岸田文雄 殿